



RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2011-2012 年度 No. 1 4

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F
ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2011-2012 年度 会長 高瀬顕正、幹事 浅田裕二

2011-2012 年度 RI テーマ



「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」
(カルヤン・バネルジー会長)

例 会 記 録「職場例会」

第 1 5 9 2 回例会

平成 2 3 年 1 0 月 1 2 日(水)

鳥越の宿「三楽園」

1. 点 鐘 高瀬顕正会長
2. ソング 「我等の生業」



3. **会長の時間**：本日は職場例会、三楽園にて、坂井さ

ん有難うございます。素敵なお音楽の中、食事を頂きました。毎回ここでもいいかなという感じです。先月の 17 日は仲秋の名月でした。そして、ほんじつもまた満月でないかと思えます。月が一番美しいのは何日目かと本に書いてありました。それは 14 日目の月だそうです。もう一歩で丸くなる、完成間近が美しい、人々に感動を与えるというのです。なるほどと思えました。関連した話ではありませんが、当クラブの出席率がとても良くなっています。嬉しいことです。

後ほど坂井さんから、卓話を頂きます。昨年の地区大会で、菊池パストガバナーが「職業奉仕」について話されました。大変わかりやすかったです。「職業奉仕とは、各自がそれぞれの仕事を一生懸命にすることが、そもそも職業奉仕である。衣食住、それぞれにできないことがあれば、それぞれの職業の人に力を借りる。そして、毎週例会に出席して、皆さんとお話をする。これも立派な職業奉仕である。」と菊池パストガバナーがおっしゃいました。本日、坂井さんの職場での卓話も大変、楽しみであります。

ところで、今月 30 日の国際ロータリー 2610 地区の地区大会に、13 名の出席予定者があり、交通手段を考えたいと思います。

4. 幹事報告 (斎藤副幹事代理)：①米山奨学会の 9 月の寄付金傾向「米山だより」各テーブルに配布してあります。②例会変更、高岡西 R C から来ております。③前回理事会の報告をします。会長から 2 つの提案があ

りました。一つは、「粗食の日等キャンペーン」で、2610 地区の進めるラオス農業支援センター設立に向けて、会員一人 1000 円以上の要請があります。東日本大震災後でもあり、いろいろ意見があり、高瀬回 s 長に任せることにしますが、一応継続審議とします。もう一つは、当クラブの名称変更について、本年度発足時から話が出ていましたが、今年度中に結論を出すには、来年 4 月中には手続きを済ますようにするため、12 月中に結論を出したいということになりました。

5. 委員会報告：①出席委員会：本日 20 名中 15 名出席（調整後 75.00%）②社会奉仕「いい歯の日キャンペーン」（山本会員）：今年は 11 月 8 日午前 10 時～11 時まで、マーシ園で実施します。③高瀬会長補足：来週、金田ガバナー補佐が事前訪問されます。例会後、クラブ・アッセンブリをしますので、残って下さい。

6. ニコニコBOX(本日 6 名、9000 円。)

高瀬会長：斎藤さんからの新米美味しく頂いております。職場例会、坂井さんに感謝。

坂井会員：取材あり、家庭画報 12 月号、お楽しみに！

中島会員：斎藤さんの新米に感謝。

助田会員：久しぶりに例会出席です。早退します。

山本会員：週末、東京・千葉に行ってきました。帰りに、戦後初公開の芝増上寺の三解脱門の釈迦三尊を拝んできました。

岩崎 SAA：結婚祝に感謝。先日、南相馬市へ行ってきました。



職場例会卓話 坂井彦就職業奉仕委員長

坂井委員長：本日は有難うございます。8 月 7 日に行われ

ました、地区職業奉仕委員会の資料の一部を配布します。まず、そちらから説明し、卓話に入ります。最初から、話がそれますが、昨日・一昨日と、『家庭画報』の世界文化社から、ライター・カメラマン・モデルが来られ、「美容と健康」特集で取材されました。12 月号で、16 頁枠で 2-3 頁が載るそうで、ひょっとしたらメインになるかもしれません。素敵なモデルさんで、世の中にこんな品の良い人がいるのかと驚きました。

1. **職業奉仕研修会の報告**

配布の資料を参照下さい。2610 地区 2011-12 年度の運営方針として、「職業奉仕はロータリーの根幹である。未曾有の大災害により益々経済環境が厳しくなる昨今、我々ロータリーの綱領、四つのテスト、職業宣言の真髓を理解し、『品格のある経営』を実践し、高潔な職業人として時代をリードしていく。又、次世代を担う青少年若年層の望ましい勤労観、職業観の育成のため職場体験や職業指導を支援することにより、ロータリークラブの意義と存在を広く社会に知らせる」を掲げています。そのために、職場体験支援事業所を増やすことや、「14 歳の挑戦」やインターンシップの受け入れを積極的に行い、長期に継続させることに努力しましょう、と話が出されました。

2. **我が社の職業奉仕の実践報告**

① **インターンシップと 14 歳の挑戦**

我が社でも、学生の頃から意識付けが大事と考え数年前より行っています。インターンシップは、大学生を 2 週間面倒をみるもので、今年は大震災の影響で出来ませんでした。昨年は 1 名、一昨年は 4 名。昨年の子は、たまたま庄川町の出身者で、就職内定にこぎつけました。新人教育や学生の教育は、入社 2-3 年目の社員にさせています。座学を行い実践しています。布団敷き・トイレ掃除・風呂掃除・料理運び・応待などで、最後に必ず一日の反省を 30 分ほど行い、反省文を書いて帰らせています。感心したのは、インターンシップを受けた学生を集めて懇談会をした時に、その子が言ったのは、「もっと厳しくやってほしかった」ということで、びっくりしました。気を使ってやさしくするより

もしっかり指導してもらいたいという気持ちが出ていました。その子は水泳の選手で、体育会系で鍛えられているのです。その後、会社説明会に来てもらい、内定しました。インターンシップを受け入れると、4月の新入社員を受け入れる春と2回、社員に新たな緊張が生まれ、ともに成長していき、とてもいい事です。

14歳の挑戦については、富山のピザの店『ピザーラ』で受け入れています。堀川中の4名が来ました。日中の仕事、掃除、挨拶、仕込みの手伝いまでさせました。各自、自己紹介カードをもって、自分の抱負や希望が書いてあり、保護者からのお願いも書いてあります。昨年の感想の中で、仕事の大変さを学んだ、ピザを作るのが楽しかった、相手の気持ちを大切にすることを学んだなど、あり、読んで感心しました。

② 新卒採用

中小企業同友会と北日本新聞がタイアップして、**合同企業ガイダンス**を今年から実施しています。我が社も参加しています。これは、内定率が60%程度で、我々にとってもチャンスです。3年ほど前までには、中小ということで全体で3名ほどしか来なかったこともあります。もっと学校を回ろうということで、私は東京を担当し10校ほど（日大・明治・法政など）回り、関西を回る担当も作りました。おかげで、段々とガイダンスに来てくれる学生も増えて、300-400名きました（関西からも）。

次に、自社の会社説明会をやって、**中小企業の良さ**を伝えています。今は中小企業を勉強する学生も増えてきています。企業数の99%以上、就労人口の80%強が中小企業です。自分の実力を発揮できるし、好きな仕事をするチャンスもあります。旅館業は、**接客業の頂点という素晴らしさ**であるとか、**自社の理念・ビジョン・戦略**を伝えています。

③ 人を育てる（社員共育）

定年60歳から65歳、70歳への延長が言われる時代になってきました。社員は、女は結婚や

出産、男は家を建てるなど其々に仕事とは別の大事を抱えています。一人前の社会人になるよう育てる、これが会社の使命でもあります。社員には自ら考え、自ら行動するよう求めています（**自主性の発揮**）。社員が主役です。覆面調査をして、改善案を出し、向上を求めます。新人教育には、入社2-3年目の社員を当てます。それは、教える側も教えられる側も**共に学び共に育ち合う風土づくり**を目指すからです。上司と部下の個人面談を年数回行います。それから、**労働環境の整備**を実施しています。完全週休2日制や有給休暇の導入など、仕事と家庭両立ブックも作成しました。

④ 障害者雇用の検討

先日、社員の2/3が障害者という社長さんと話をしました。我が社の仕事で悩んでいるのは掃除などの裏方を確保することだと相談しましたら、障害者にもいろいろな人がおられるので、コーディネーターさんなどに相談したらよいとアドバイスをもらいました。その社長さんの話す社会貢献とは、その子も、面倒をみる母も働けないが、その子を雇えば、母が働ける、会社も助かるし、母も助かるのです。今後は是非、検討したいと思います。

